

カウントダウン!

札幌国際芸術祭



開幕まであと109日!

※4月1日(火) 時点

札幌国際芸術祭2014の開幕が近づいてきました。

この芸術祭は、市民一人一人の創造性を、まちの魅力向上につなげる「創造都市さっぽろ」の象徴的な取り組みです。

ここでは、芸術祭に関わる方の声を紹介しながら、その見どころに迫ります。

[詳細](#) 国際芸術祭担当 ☎ 211-2314

開催期間

7/19(土)~
9/28(日)

芸術祭に参加するアーティストなどを発表しました

3月13日に行われた発表会では、参加アーティストたちが芸術祭や作品への思いを語りました。



芸術祭のゲストディレクター 坂本龍一氏とアーティスト

Photo: Kentaro Minami

道内からは16人(組)が参加!

※3月13日時点

参加アーティストや会場構成を行う建築家は、国内外から合わせて48人(組)。うち16人(組)が、道内出身または在住など北海道にゆかりがあります。

[3月の発表会の登壇者]

名前	出展会場
岡部 昌生 (おかべまさお)	道立近代美術館(中央区北1西17)
高谷 史郎 (たかたにしろう)	
宮永 愛子 (みやながあいこ)	芸術の森美術館(南区芸術の森2)
進藤 冬華 (しんどうふゆか)	駅前通地下歩行空間
真鍋 大度 (まなべだいと)	
毛利 悠子 (もうりゆうこ)	
山川 冬樹 (やまかわふゆき)	

北海道出身のアーティストに展示作品にかかる思いを聞きました



Photo: Nanda Lanfranco

紙と鉛筆で 都市の記憶や痕跡を 写しとる

おかべ まさお
岡部 昌生さん

根室市出身
北広島市
在住

壁や地面に紙を当て、鉛筆でこすって写しとる「フロッターージュ」という手法で作品を制作。世界の都市で、地域の人と関わりながら制作活動を行っている。1942年生まれ。

—芸術祭を札幌で開催することへの思いは?

1980年代以降、道内のアーティストと共に、自前で国際展を開催してきました。その実績と影響、熱意が札幌国際芸術祭という一つの形になったとしたら、うれしく感慨深く思います。

—展示する作品は?

2つの炭鉱遺構のフロッターージュ作品「ユウバリ・マトリクス」です。展示室の床には、夕張の発電所のタービンが抜き取られた巨大な穴の黒い十字型が残る床の痕跡の作品を、壁面には、道東の雄別炭礦病院の遺構で、学生たちと制作した作品を展示します。壁面作品の紅赤が、1年をかけて制作した114

点組・7m×14mの鉛筆の作品に映ります。

—展示方法に特徴があるそうですね

床に置いた作品の全面を強化ガラスで覆い、その上を来館者が歩いて鑑賞します。制作の追体験と場の痕跡から歴史の現場に入り込み、主題の「都市と自然」をイメージし、共有してもらえenと思います。

—市民の皆さんへメッセージをお願いします

たくさんのアーティストの表現や提案は、新しい発見につながります。まちにあふれるアートにふれ、「想像」と「創造」の楽しさを同時に受け取ってほしいですね。



←岡部さんの展示作品
「YUBARI MATRIX」

(参考作品)
壁面：《雄別炭礦病院屋上遺構》2009
床面：《北海道炭礦汽船真谷地炭礦電力所遺構》1998
「岡部昌生フロッターージュ・プロジェクト雄別炭礦を揺る」展での展示風景(釧路市立美術館、2009)
Photo: 滝千尋



←作品制作の風景
タービンが抜き取られた深さ20mの穴のそばで命綱を付けて作業を続けた

(YUBARI MATRIX 1998) 制作現場
Photo: 中川 潤

札幌国際芸術祭の情報はホームページでもご覧になれます

札幌国際芸術祭 2014

検索